

小笠原諸島森林生態系保護地域

- 1 設定時期：平成19年4月1日
- 2 設定面積：5,580ha（保存地区 5,319ha 保全利用地区 261ha）

森林生態系の厳正な維持を図る「保存地区」と、保存地区の森林に外部の環境変化の影響が直接及ばないように、緩衝の役割を果たす「保全利用地区」に区分しています。



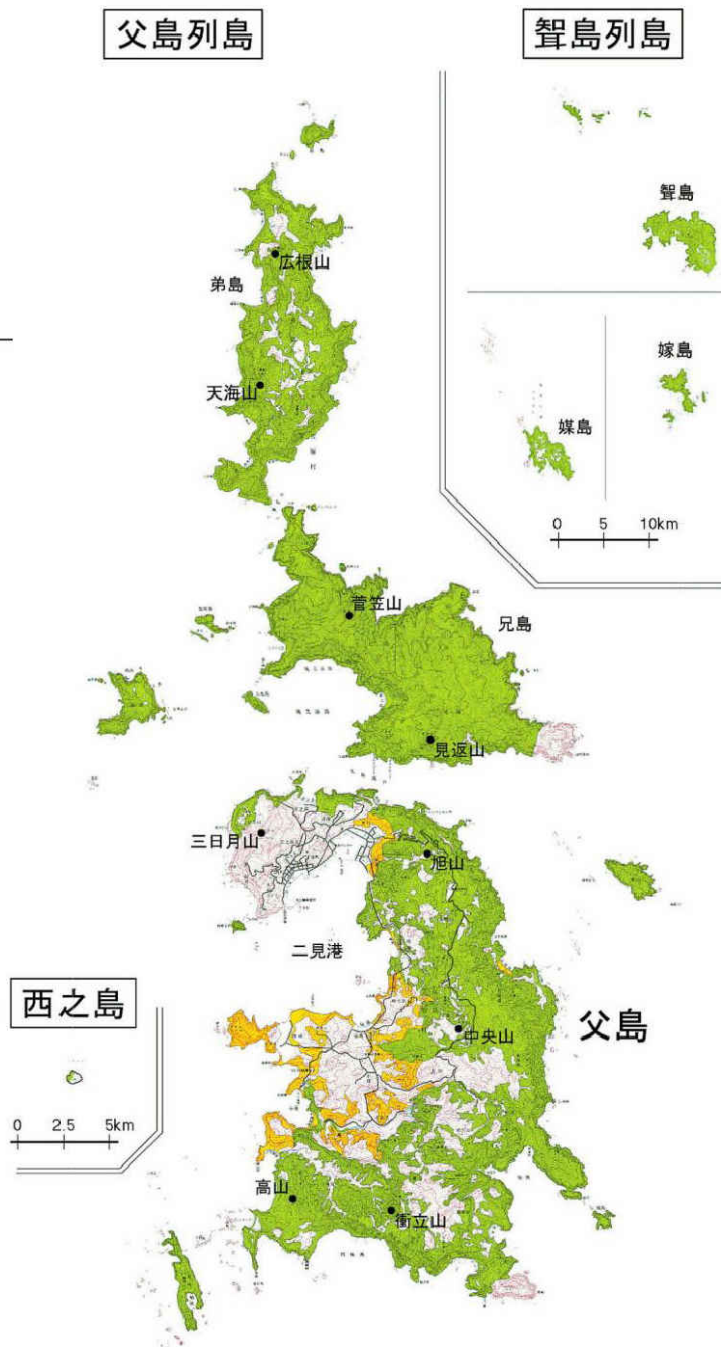
聳島の植生



南島



扇池





母島北港

3 設定の目的：

小笠原諸島は、過去に一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島であり、島嶼生態系として、独自の進化を遂げた貴重な動植物が数多く生息・生育し、特異な森林生態系を有していることから、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林管理技術の発展、学術研究、環境教育等に資することを目的としています。



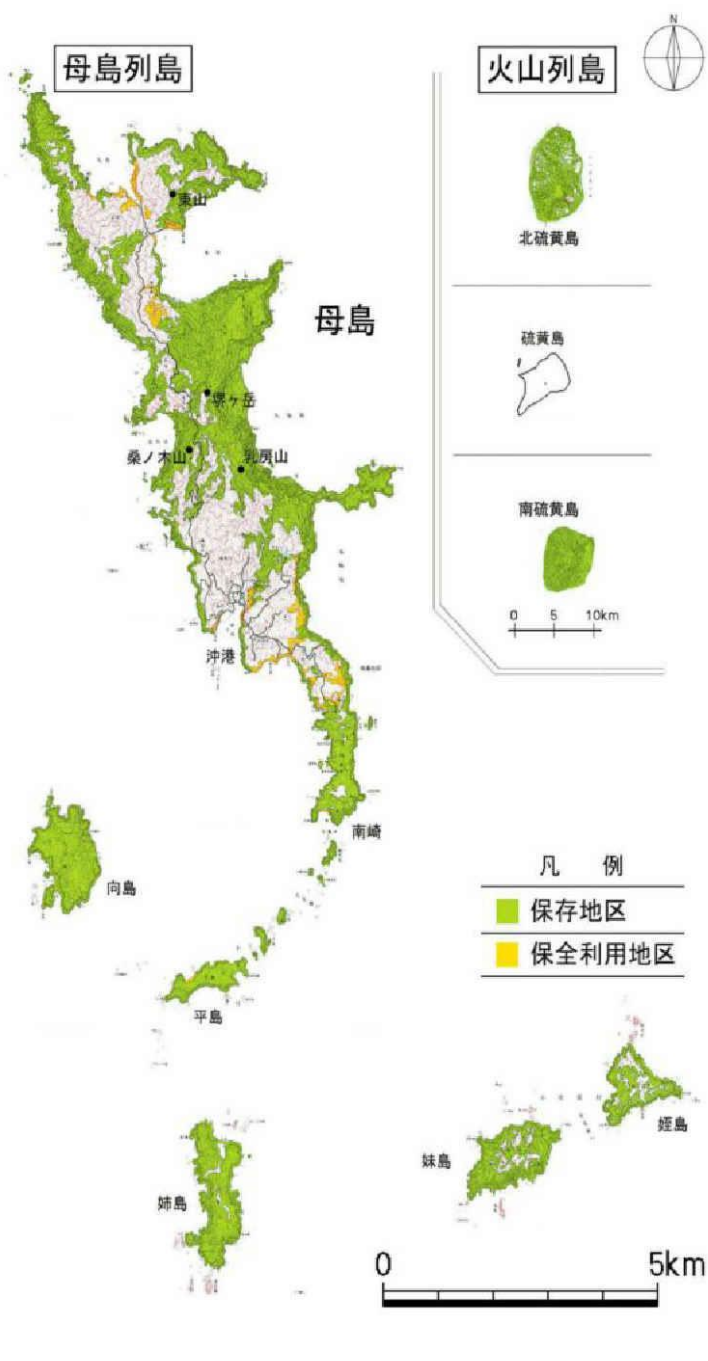
沖港



南崎



堺ヶ岳石門



4 特 徴：

① 動 物

小笠原諸島は、海中から隆起した海洋島であり、地理的・地史的にも大陸から隔てられていたため動物相は単純です。

ほ乳類では、オガサワラオオコウモリ、鳥類では、ハハジマメグロ、アカガシラカラスバト、オガサワラノスリ、オガサワラカワラヒワ、昆虫では、オガサワラシジミ、オガサワラゼミ、は虫類では、オガサワラトカゲなど固有種、固有亜種が多く、天然記念物や国内希少野生動植物種に指定されているものが多く生息しています。

一方、移入種として、ノヤギ、ノネコ、ノネズミ、グリーンアノール、ニューギニアヤリガタリクウズムシなどが生息しており、固有種等の生息に大きな影響を及ぼしています。



アカガシラカラスバト



オガサワラトカゲ



グリーンアノール

② 植 物

父島、母島に生育する自生植物は 309 種あり、固有種が 143 種で固有種率は 46 %を占めています。これを木本植物のみに限定すると 68 %という高い固有種率になっています。

小笠原諸島の植生は、小笠原諸島固有の種群により構成された常緑広葉樹林となっており、この高木層の主要構成木は、シマホルトノキ、ムニンヒメツバキ、コブガシ、テリハコブガシであり、属及び種の形態は東南アジアの植物群に所属します。低木層や亜高木層を形成する樹種には、シロテツ、オオバシロテツのように小笠原独自に分化した種群があり、ポリネシアやハワイに類縁のある植物が分化したものといわれています。

植物についても移入種の問題があり、特に、過去において薪炭用として移入したアカギ、モクマオウ等は固有植生に対する大きな脅威となっています。



シマホルトノキ (コブノキ)



アカテツ



アカギの稚樹

<お問い合わせ先>

林野庁 小笠原諸島森林生態系保全センター

TEL : 04998-2-3403